

令和5年度 自己評価 報告書

(看護学科3年課程・看護学科2年課程)

1. 自己評価結果

【評価尺度 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切】

| 評価（大項目） | 3年課程 | 2年課程 |
|--------------------|------|------|
| I 教育理念・目的・目標、育成人材像 | 3.6 | 3.5 |
| II 学校運営 | 3.1 | 3.1 |
| III 教育活動 | 3.2 | 3.2 |
| IV 学習成果 | 2.9 | 2.8 |
| V 学生支援 | 3.1 | 3 |
| VI 教育環境 | 3.1 | 3.1 |
| VII 学生募集 | 3.3 | 3 |
| VIII 財政 | 2.9 | 2.9 |
| IX 法令 | 3.3 | 3 |
| X 社会貢献・地域貢献 | 3.0 | 2.7 |

I 教育理念・目的・目標・育成人材像（3年課程 3.6 2年課程 3.5）

両課程ともに「看護専門職業人として、地域社会に貢献し得る有能な人材を育成する」ことを、設置の主旨としている。さらに学校としての教育理念・目的・目標・育成人材像を定め、具体的な教育方法へ発展させている。学生には、入学時、ガイダンスで説明するとともに、卒業まで3年間の学習指針になるよう教育目標毎に学年別目標を設定し、実習前、各年度末に学生自身が到達状況を自己評価し自己の課題を意識してゴールを目指せるよう面接・サポートを行っている。また、教育理念等は学校ホームページ、学生便覧に示し周知を図っている。

本年度開設となった3年課程については、2年課程の教育理念・目的・目標・育成人材像などカリキュラム全体を評価し、新カリキュラムの主旨を理解・共有しながら3年課程開設につなげた。

課題としては、2年課程と3年課程が混在する中、新任教員への学生像・各カリキュラムの周知が不十分な面があり、教員間のコミュニケーション連携を強化し改善を図ることが必要となる。また外部講師、臨床指導者にカリキュラムの主旨など丁寧に説明し混乱を防ぐ配慮が必要である。

Ⅱ 学校運営 (3年課程 3.1 2年課程 3.1)

本校は上田市医師会が運営する組織であり、上田市医師会定款に上田看護専門学校の学則・細則を位置づけ設置の主旨と目的を明記している。同定款に人事、給与に関する制度を定めている。円滑な運営を図るため学則・細則に示された運営会議（学校運営会議・教務会議・臨床指導者会議・講師会議・入試委員会等）に則り、定期的に会の開催・審議がされ方針が提示されており、運営組織・意思決定機能は有効に機能している。

准看護師課程（R3 募集停止）・2年課程定時制（R4 募集停止）の閉校・廃止、3年課程（全日制）開設については、上田看護専門学校在り方検討委員会で討議を重ね、前述の方向性が示された。

少子化・看護教育の大学化の中、年々入学者数が減少し新3年課程においても依然学生確保は厳しい状況である。今後は、学生から選ばれる魅力ある学校づくりをめざし、安定的な学生確保につながる方策を検討していくために、新たな委員会（経営戦略委員会）を設置し積極的に学校運営に取り組んでいく予定である。

成績管理・図書管理等、情報システム化による業務の効率化については、学校独自の方法で管理を行っている。支障はないものの発展途上である。

Ⅲ 教育活動 (3年課程 3.2 2年課程 3.2)

令和5年度の教育課程は、2年課程2・3年生は旧カリキュラム、3年課程1年生は新カリキュラムでの授業となった。両課程ともに教育理念等に沿った教育課程（講義・演習・実習）を体系的に編成し教育活動を進めている

3年課程では、学科進度に基づき入学直後4月から解剖生理学、病態学等の専門基礎分野の科目がスタートした。看護について初学者である学生にとっては、人体の構造・しくみ、病態の専門用語を理解することの難しさもあり、再試験者が多くでる結果となった。対策としては、学生が主体的に予習復習に取り組めるようシラバスの早期配布、演習（白地図作成、病態関連図の学習ノート作成、ワークブック利用等）の方法・時期の工夫、時間の確保等の見直しを行い次年度の計画を進めている。講師との情報交換・連携も必要となる。

実習に関しては、到達目標がわかりやすいようルーブリック評価を取り入れた。公平な評価になっているか、学生の学習指針になっているか成果を確認していく。

また実習指導においては、実習指導者と教員がそれぞれの役割を果たすとともに、実習目的・目標・方法を共有・連携して学生が学びやすい実習環境を提供できるよう、引き続き有効的な臨床指導者会議を開催していく。

2年課程では、就業しながらの履修となり学習時間・学習環境を確保することが難しい。廃校により在籍年数が短くなるため、学則に則り丁寧できめ細やかな関り・対応を行い、全員が欠けることなく卒業できることを目指していく。

講義・実習について専任教員は授業評価を実施しその結果を受け止め授業・実習方法を工夫し改善に努め次年度につなげている。外部講師に対しては学生からのリフレクションシートにより双方が建設的に振り返りできる方法を考えている。

教員の質担保については、毎年、研修費が予算化され計画的に自己研鑽に努めている。3年課程開設に向け、R4・5年度は計4名の専任教員が他校の3年課程の研修を受け本校の教育活動に反映させている。

学校評価については、R5年度より学校関係者評価を導入することになった。客観的な助言をいただき、良い学校づくりに活かしていきたい。

IV 学修成果 (3年課程 2.9 2年課程 2.8)

3年課程

退学・進級について：1年次 26名中 10月に1名退学（家庭の事情・進路変更）、2名休学（学習への迷い等）、2名留年（成績不良）となり、2年生への進級は21名。個別に応じたサポートを行っていく。

国家試験への取り組み：1年次より看護師国家試験に向けての取組みを行っている。専門基礎分野の科目（解剖生理学・病態学）の学習成果の弱さ・苦手意識が看護の道を進むことへの困難さにつながらないように、サポートが必要な学生には丁寧に指導を重ねていく。

就業について：卒業後の就業に関しては、就職ガイダンス（病医院の紹介、就学資金等）を入学後の早い時期に実施し、地元への就業率が向上するよう計画を進めている。

(R6.4.25 実施予定：1・2年生参加)

2年課程

退学について：R5年度2年生1名、3年生2名が退学。家庭の事情、学生の学力的課題が大きく、面接を重ねた結果の進路変更となる。しかし退学の理由が学校に魅力を感じないこと、教員の関わり方や指導に対する不信感があることも一因であり、チームとして個別性に応じたきめ細やかな指導でゴールを目指すことが求められる。

国家試験合格状況：入学時より国試対策プログラムを開始し、合格率は全国平均以上の数値を残している。

就業状況：就業率は100%、就職相談窓口を設け、地元定着をめざし就活サポートを行っている。

課題として、卒業後の状況を把握できていない状態である。卒業生が集まれる機会をつくり卒業後の就業状況や抱える悩みを確認し教育活動を見直すことが必要である。

V 学生支援 (3年課程 3.1 2年課程 3)

精神面でのサポートとして、令和5年度よりカウンセラーを配置した。個人情報保護のために、教員を通さずメール等で相談依頼ができる体制になっている。また、教員側も両課程ともに常時また必要な時期（定期的）に一斉面接を行い学習面、学校生活等における相談を受けサポートにあたっている。

経済的支援としては、経済的理由で修学を断念することがないように学校独自の修学資金および各種修学資金の紹介を行っている。ただし、多重債務にならないよう学生、家族等へのアドバイスを加えている。

3年課程では、新しい試みとして、成績上位3名を対象に成績優秀者修学資金を立ち上げた。学生の学習意欲につながることを期待している。（3年課程学生の1・2年次対象。1位20万円・2位10万円・3位5万円）

高等教育修学支援新制度、専門教育訓練給付金制度の認可を受けられるよう準備をすすめる。

VI 教育環境 (3年課程 3.1 2年課程 3.1)

運営会議において、学生・教員の要望を反映し学校設備の改修や教材の充実を図るための予算編成が行われている。3年課程開設を機に、R4年度より学生更衣室のロッカー、シューズボックス、各演習室等の机・イスの入れ替え、冷暖房修繕等学習環境の整備に努めた。学生トイレの洋式化、学生が使えるWi-Fi環境、学生食堂（サロン）等に関しては、物理的経済的な課題が大きく当面は現状の中で工夫し、今後再検討していく。

防災設備は年1回建築基準法に基づき定期調査を受けている。年2回の防災訓練を実施し、学生及び教職員の安全を図っている。

災害時の緊急メール・連絡方法等マニュアルの見直しを定期的に行うことが必要。

VII 学生募集 (3年課程 3.3 2年課程 3)

少子化・大学化等の影響は大きく、新課程においても学生確保は厳しい状況である。地域に貢献できる看護専門職者の養成を目指し魅力ある学校づくりと積極的な広報活動を計画的に進めていく。特に高校生に加え、小学生・中学生にも看護の道を知ってもらう機会を作っていきたいと考えている。（現段階で具体的な案は考えられていない）

IX 法令 (3年課程 3.3 2年課程 3)

両課程ともに法令、専修学校設置基準などを遵守し、適正な運営を行っているが、2年課程専任教員が、2名欠員状態であり、募集を募っていく。

学生、受け持ち患者、実習施設等の個人情報保護は規程に基づき対策を継続していく。

R5年度より学校評価（自己評価・学校関係者評価）の実施、改善及び公開への取り組みを進めている。課題点のみにとらわれず、70年の歴史の中で築かれた強み・特徴を大切に組み込んでいく。

X 社会貢献・地域貢献 (3年課程 3.0 2年課程 2.7)

多くの学生が地元就職をしており、地域貢献への役割を果たしている。

年2回、学校周辺の地域清掃を学生・職員が一緒に行っている。

本年度から開催した地域交流会は次年度より学校際に組み入れ少しずつ拡大し、多くの地域の方々に参加していただけるよう準備を進めていく予定。また、特別講演会も次年度より一般参加者を募っていく予定である。

ここ数年コロナの影響で学生ボランティアの誘いが遠のいていたが、積極的に学生に情報提供し参加を呼び掛けていきたい。

専任教員は、地域の特定検診・コロナワクチン接種に協力を行った。

令和6年度 上田看護専門学校 看護学科 学校関係評価委員会

以下の日程、委員によって会を開催。R5年度学校自己評価について承認された。

- I. 日時：令和6(2024)年04月18日(木) 午後6時30分~午後7時30分
- II. 場所：上田市医師会 第1会議室
- III. 出席者：11名

(学校関係者評価委員)

峯村 秀則 (上田市教育委員会 教育長)

岡部 由美 (丸子中央病院 看護部長)

(自己評価委員；学校教職員)

橋本 至永 (学校長)

鳥羽 泰之 (副学校長)

柳原 渉 (事務局長)

小林 一彦 (前・事務局長)

舟見 高子 (学校教務課長)

土屋 真澄 (看護学科2年課程・教務主任)

金井 幸子 (看護学科3年課程・教務主任)

三井 みどり (看護学科3年課程・教務主任補佐)

西沢 由美枝 (学校主務主任)